

## 外国の印象深い植物 ＝IPPS TOURに参加して＝

元南九州大学教授  
IPPS-J 初代会長 山本 友英



農業学部を卒業したとはいえ、JTの研究機関で29年間、タバコ植物だけを対象に研究を進めていたので、南九州大学園芸学部へ転勤しても、園芸植物については、無知といってもいい有様でした。IPPS JAPANの創立2年前の1992年に、ニュージーランドのIPPS支部のお誘いで訪問してから、外国のIPPS TOURにしばしば参加するようになり、それは驚きの連続でした。沢山の園芸植物と出会ったからです。その中から、特に印象に残ったいくつかの園芸植物を紹介しましょう。



写真① *Araucaria heterophylla*

### 写真① *Araucaria heterophylla*

1992年、初めてニュージーランドのオークランド空港に降りてロビーを出た時、目の前にこの2本の大きな樹木がありました。まっすぐに伸びている幹に長い葉をつけた枝がすーっと伸びています。日本ではあまり見ない樹木で、しばらく、じっと佇んでいました。ナンヨウスギ科のアラウカリア属で、ニュージーランドでは、ノーフォークパインとも呼ばれています。その数年後、オークランド空港ロビーの改築の際、この樹木は取り除かれ、もう、今ではこの風景は過去のものとなりました。



写真② *Echium spp.*

### 写真② *Echium spp.*

オークランドから国道1号線を1時間半ほど南下し、左折してしばらく進むと、大きな丘の上にJoyナーセリーがあります。沢山の鉢物を生産していますが、庭の隅にこの紫色の花の不思議な植物がありました。スペイン原産で、ムラサキ科のエキウム属で、排水が良く日照豊富な地帯を好むそうです。丘の上にひとつあるこのナーセリーから、周囲を見回しても、家は見当たりません。時折聞こえる風の音も印象的です。2人の小さなお孫さんが丘の下の小川で遊んでいました。18年過ぎた今、立派な大人になって働いている事でしょう。

### 写真③ *Protea nerifolia*

オークランド植物園は、庭園風の静かな植物園です。ここで撮影したプロテアですが、高さ3メートル程度になります。日本でも生花に用いられる事があります。南アフリカ原産で、ケープ地方南岸の山脈に分布しているそうです。



写真③ *Protea nerifolia*

### 写真④ *Rhododendron*

ニュージーランド南島の最大の都市、クライストチャーチの植物園にあるシャクナゲのひとつです。ツツジ科、ツツジ属の植物で、日本では低木ですが、ニュージーランドでは、この写真のように10メートル位の高さのも多く、沢山の花が咲きほこり、それは見事でした。



写真④ *Rhododendron*

### 写真⑤ *Spathiphyllum*

オーストラリアのブリスベン空港に早朝に降り立った時、当時、IPPS国際会長のイアン・ゴードンさんが出迎えてくれました。早速、案内して下さったのはエドワード・バンカーさんの大きなナーセリーです。写真⑤には見渡す限りの広いハウス内で生育しているスパティフィラムです。中南米、太平洋諸島を原産地とするサトイモ科の植物で、小さな苗はアメリカからの輸入と聞きました。

当時、アメリカで生産されている培養苗の約半数は観葉植物であり、その中で、スパティフィラムは主要な作物とされています。(R.H. Zimmerman; *IPPS Combined Proceedings Vol.46,623-625,1996*)。



写真⑤ *Spathiphyllum*



写真⑥ *Eucalyptus*

### 写真⑥ *Eucalyptus*

オーストラリア南東部とタスマニアに分布するユーカリはコアラの食べ物としても有名です。私は、tourの途中に大きな山の森一面のユーカリを見た事があります。かなりの古い大木で、白い幹の寄り集まった光景は、骸骨の集まりを連想しました。この写真に見られるように、若いユーカリには花が咲きます。黄色い花も見たことがあります。この赤い花咲くユーカリは、オーストラリア東南部のヴィクトリア州で撮影しました。



写真⑦ *Picea pungens*

### 写真⑦ *Picea pungens*

アメリカ北部からカナダにかけて、沢山の針葉樹がありますが、中でも私は、この写真の*Picea pungens*の樹形と白味がかかった緑の葉に魅力を感じます。マツ科、トウヒ属でアメリカハリモリと呼ばれているこの樹木は、日本ではあまり大きくなりません。この写真は、アメリカオレゴン州の有名なIsleiナーセリーで撮影されたものです。

### 写真⑧ *Kato*ナーセリーでの筆者



写真⑧ *Kato*ナーセリーでの筆者

1997年、アメリカ西部Regionの大会に参加した時、参加者は、バンクーバー郊外の*Kato*ナーセリーを見学しました。40数年前に日本から移住した加藤さんのナーセリーで、タケも含めて沢山の種類の鉢植え植物を生産し、その多くは、カナダ最大の都市、トロントまで出荷されているとの事でした。私は、日本を遠く離れた外国で事業に成功されている加藤さんに敬意を表しました。この写真は、沢山のバラが生育しているこのナーセリーで撮影された筆者です。



写真⑨ ノルウェイ農業大学の圃場

### 写真⑨ ノルウェイ農業大学の圃場

1998年、デンマークで開催されたIPPS大会のPre-Conference tourの集合場所はオロスでした。翌日、最初の見学先は、オロスのやや南のアースにあるノルウェイ農業大学で、写真9は、その大学の圃場を撮影したものです。なだらかな広い斜面に沢山の園芸植物が植えられ、遙か遠くの山や森を背景に色とりどりの花が咲き、それは本当に心休まる圃場でした。



写真⑩ *Rosa rugosa*

### 写真⑩ *Rosa rugosa*

1998年の9月、オロスに集合する前に、1人でフィンランドを訪問しました。首都ヘルシンキの中央駅の近くにバルチック海に通ずるトーロ湾があります。湾といっても湖のようで、その周辺には沢山の植物が栽植され、オペラハウスやフォンランドシアホールもある美しい公園です。その水辺の随所にハマナスの花が見られ、写真⑩にその一例を示します。バラ科植物で、日本では北海道の海辺の砂地で自生しています。このハマナスの実は、形も色もミニトマトに似ています。



写真⑪ 湖畔の *Sorbus* spp.

### 写真⑪ 湖畔の *Sorbus* spp.

ヘルシンキ中央駅から特急で約1時間北上すると、ハメンリンナという小都市があります。そこで、作曲家シベリウス誕生の家を訪れ、更にバスで約15分走るとアウランコホテルがあり、そこに1泊しました。近くには人の気配も感じられない静かな湖があります。その湖畔に1本の *Sorbus* がありました(写真⑪)。バラ科植物で、日本ではナナカマドと呼ばれています。赤い実でしたが、種類によっては白色あるいはオレンジ色の実のなるナナカマドもデンマークやニュージーランドで見かけました。比較的涼しい地帯に自生する樹木で、日本では北海道や東北で街路樹として植えられている所もあります。この写真のナナカマドは、赤い実の少ない例ですが、この実の少ない樹木が、湖の静かな雰囲気と調和していると感じました。